

11月のHUGだより

情報提供者：HUG スタッフ

11月のテーマ：子どもが頭をぶつけた時

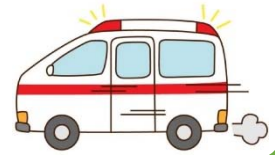
子どもは体を動かすことが大好きなので、気を付けていても一瞬のスキに事故が起こってしまうことがあります。そこで今月は万が一の時のために知っておいてほしい、頭をぶつけてしまったときの対処法や受診の目安、そして事故を予防する室内環境のポイントをお話ししたいと思います。

頭をぶつけた後は、24時間様子を見て！！

頭をぶつけたことで何か問題が起こった場合は、衝撃を受けて3時間以内に症状が出ることが多いです。とはいえ、ぶつけた直後には症状が出にくいこともあるので、24時間は子どもの様子が変わらないか注意して観察してください。

☆すぐに救急車を呼ぶ症状

- ・ぐったりして泣かない
- ・意識がない、ぼんやりしている
- ・出血が止まらない
- ・けいれんを起こしている



☆すぐに病院を受診する症状



- ・頭が激しく痛む
- ・嘔吐を繰り返す
- ・機嫌が悪い、ぐずり続ける
- ・頭頂部や後頭部に5円玉より大きなコブがある
- ・時間とともにコブが膨らんでくる
- ・手足に力が入らず、しびれたり歩くのが不安定だったりする

このような症状がなければ、自宅で様子を見て大丈夫でしょう。コブができていようであれば、冷やすと痛みが和らぎます。

事故を予防するために室内を安全安心な空間にしよう！

子どもは日々成長し、昨日までできなかったことができるようになり、予想もしていなかった動きをすることがあります。乳幼児の転倒転落の多くは家庭内で起るとされています。事例の一部を紹介します。(ヒヤリハット事例)

- ・タオルケットを持って階段を上っていたらそれを踏んでつまずいて転んだ
- ・網戸を自分で開けてベランダに出て、収納ボックスに上って柵から身を乗り出していた
- ・キャスター付きの椅子から転落して、近くの家具に頭をぶつけていたら大変なことになっていた

等、他にもたくさん事例が挙げられています。

次に対策の例を紹介するので、参考にしてみてください。

- ・はいはいを始めたら、家具の角に保護カバーをつける。
- ・階段、キッチンなど危険な場所には入らないようにゲートを設置する
- ・ベランダには植木鉢や椅子など踏み台になるものは置かないようにする
- ・窓の近くにベッドやソファなど踏み台になるものは置かないようにする

皆さんも今一度ご自宅の様子を点検してみてください。

